家庭教育支援基盤形成事業

自治体名

岩手県久慈市

学校数

小学校　17校　中学校　9校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

死者 4 名、行方不明者 2 名、住宅・建物被害 278 棟。水産業は甚大な被害を受けた。東日本大震災をうけ防災体制強化のため久慈市総合防災公園の整備を進めている。　応急仮設住宅 2 地区15戸　災害公営住宅3地区11戸(整備中含む)

～津波防災出前講座～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
			1	久慈市立夏井小学校

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○				（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

＜取組の内容を具体的に記載＞

夏井地区は、港からの距離はあるものの河川沿いに住居・施設等が立地しており、津波の遡上や河川の氾濫による被害が想定される。また、通勤・通学等の生活道路が浸水区域となっているため、震災時の行動について家庭内で再確認しておく必要がある。

県北広域振興局土木部の職員を講師に電子掲示板を使い、地震と津波発生のメカニズムを実験映像等でわかりやすく説明していただいた。さらに、県で取り組んでいるハード面の整備のほかに、津波の対策と心得や久慈市の総合防災ハザードマップの活用、家庭内での備えなど災害から身を守るために必要なソフト面の大切さを講話いただいた。

「災害直後は、余震やライフラインの寸断など体験したことのない事態に様々なことを考えたが、普段の生活に戻るとどうしても忘れがちで･･･防災についての再確認ができ、家族でもう一度話し合いたい。」という参加者の感想を得て、震災を風化させないために、今後も家庭や地域で防災に取り組んでいくことの大切さを伝えた。

夏井小学校での津波防災出前講座の様子

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

災害発生時、家族が職場や学校など散在しており、市の中心を流れる河川の氾濫の恐れや海岸道路の通行止めなどの影響で、帰宅や住居周辺の避難所への避難ができず、家族の所在確認が困難であった。

普段からの避難所の確認、災害時の行動について家族内で話し合い、認識しておく必要がある。

◇住民等からの要望・必要な取組

親が中心となり、災害への備えや家庭内での防災、災害時の家族の所在について話し合うことが望まれる。

普段、学習機会の少ない親世代に対する防災教育を行うことにより、現状や対策を知らせ、防災意識を高め家庭内または地域の防災活動に生かしてもらいたい。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・市教育委員会…事業の広報
・学校…事業企画・運営
・県北振興局土木部…津波防災についての講師

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・学校での防災教育の現状を保護者に知らせ、そのうえで家庭における必要な防災対策の検討を促す
・現状や取り組みを映像でわかりやすく伝え、過信せず状況を判断する防災意識の向上
・総合防災ハザードマップの活用など、地域に起こりえるさまざまな災害に対する防災知識
・家庭内での防災対策と備え、家族の行動について話し合い、お互いに共通理解を図っておくこと

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

家庭教育支援は活動が定着し、学校等の事業企画により地域のニーズを捉えた効果的な講座が開催されており理解度・満足度ともに高くなっている。

小学校開催の講座については学校側の協力のもと、有機的な機会を捉え行っていることもあり、家庭教育に関心の少ない親等も含め、より多くの親に家庭教育について考える機会の提供ができている。

◇課題や今後の展望

防災講座・防災教育については震災を風化させないために、今後も開催することの大切さを実感したため、学校や地域と協力して親子で参加できる機会を活用した講座にも取り組みたい。

その他、講座によっては保護者の参加が少ないものもあり、開催機会の見直しが必要なものもあるため、保護者が集まる有機的な機会での学習機会の提供に設定していきたい。